

## (一社) 木の総合文化・ウツドレガシー推進協議会

# 議員連盟、関係省庁に向けて要望活動を実施

## 来年開催のワールド・ウツド・デイの概要を説明

一般社団法人木の総合文化・ウツドレガシー推進協議会(原口博光会長)は12月11日、東京都千代田区の衆議院第一議員会館にて「木の総合文化・ウツドレガシーを推進する議員連盟」への要望活動を実施。同会

議員連盟に所属する国会議員、関係省庁の担当者が参加した。開会の辞では、一般社団法人全国建具組合連合会の佐田時信理事長が挨拶。「最近『引きこもり』という言葉

に所属する木材産業団体の関係者、

7万人いると言われている。これは

家の中に引きこもる場所があるから可能なこと。日本の建築文化である建具や襖で間仕切る方法では、引きこもることはできない。東京の老舗ホテル関係者の話では、外資系のホテルのコンセプトはデラックス&ゴージャス、豪華絢爛。一方、日本のホテルはシンプルリーズ&エレガンス、清楚で優雅だという。木の文化が息づいてきた海外と日本の違いだと言える。今、日本の住まいは海外の人から関心を持たれている。政府・与党の国会議員の皆様

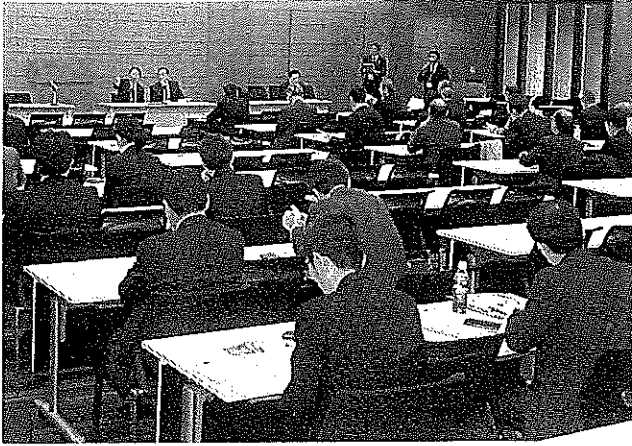
に動いていただき、是非とも素晴らしい会になることを祈念する」と、日本の建築文化を称え、木材産業に携わる団体・企業の隆盛を願った。

議員連盟の衛藤征士郎会長は「我々、議員連盟としては、ウツドレガシーをしっかりと残していきたい。当面は来年に開催されるワールドウッドデイ2020の東京大会に

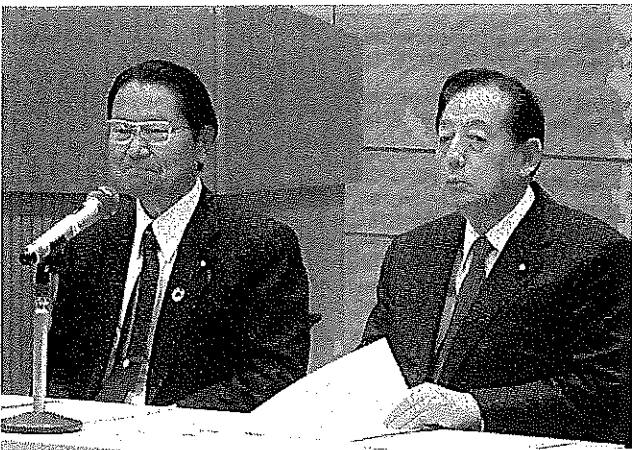
向けて実行委員会を立ち上げ、委員の皆様が努力している最中。何としても大会を成功させなければならぬ。今日の会議には議連、関係省庁の担当者が出席している。その取り組みについての報告を受け、令和2年度の補正予算関連の精査や令和2年度の予算における要望を受け止め、議員連盟として対応していく」と、政策面での木材産業への支援に言及。太田昭宏会長代行は「木材は極めて重要。最近では木造の中層建築物も登場しているが、建物に木を使うことは癒しにもなる。東京オリンピック・パラリンピックが始まるが、オリンピックを契機に木の文化が大きく世界に伸びていくように努力したい」と、木材産業の発展に尽力する考えを語った。

主催者を代表して原口会長が挨拶。「国際木文化学会(IWCS)及びワールド・ウツド・デイ基金会(WWDF)と共催で来年3月に木の祭典『ワールド・ウツド・デイ』を行う。この祭典で日本の伝統的な木材加工などを紹介していく。地球環境を考えると、いかに木を活かすかが課題になる。我々はウツドレガシー議員連盟の先生方に木材産業の

の祭典『ワールド・ウツド・デイ』を行う。この祭典で日本の伝統的な木材加工などを紹介していく。地球環境を考えると、いかに木を活かすかが課題になる。我々はウツドレガシー議員連盟の先生方に木材産業の



要望活動に参加した関係者



議員連盟の衛藤会長(左)と太田会長代行

現状を説明しながら、来年3月の祭典を案内させていただく。国内の森林資源は活用されず、木材需要は輸入で賄っている現状がある。加えて戦後に植林された針葉樹が伐採期を迎え、伐採して新たに植林しなければ、次世代に良い環境が残せない。木材活用に向けて現場に根ざした活動を推進していきたい」と、国内の森林資源の活用に意欲を示した。

ワールド・ウッド・デイ2020の内容について、齊藤晃顕事務局長が説明。I W C Sが2007年に設立して以降、木材に関する研究及び木材活用の啓蒙活動を実施。201



要望内容を発表する原口会長

3年から世界木材デイに合わせて世界各地で木材の祭典である「ワールド・ウッド・デイ」を開催。近年の大会では、世界100カ国から約1万人の一般来場者があった。次回の東京大会では来場者2万5000人を目指しているが、日本の首都での開催であり、目標以上の来場者を募るため、告知と動員を進めていく。東京大会は「Wood is good」が開催テーマ。前半は3月17日から19日までの3日間、東京都大田区の東京流通センターを会場として、木製品の展示会、ワークショップ、木育などを実施。後半は3月20

日から22日までの3日間、東京都文京区の文京シビックセンターを会場に「木の音楽祭」をテーマにコンサ



要望を受けて総括する林野庁の眞城課長

ート、シンポジウム、記念式典、展示会などを行う。

ウッドレガシー推進協議会に参加する木材産業団体の要望事項は原口会長が発表。木材産業団体から寄せられた主な要望内容は以下の通り。

◆森林・林業基本計画に基づき、国土強靱化の実現のため、令和7年までに木材自給率50%の目標達成と森林の公益的機能を充実させる。

◆F I T制度による木質バイオマス発電や木材輸出の促進、カスケード利用を遵守し、マテリアル利用のための日本産原木の安定供給と製品輸出を行う。

◆日本標準産業分類を見直し、製造業の中分類に「建具・装備品製造業」と追記し、建設業の小分類に「建具工事業」と明記する。

◆職業訓練校にNC制御の木工機械を導入し、若年者の技術教育を行う。

◆高断熱窓の一次エネルギーが極端に低い木製サッシに限定した助成金を優遇する。

◆日本産材使用の窓サッシに対する助成金の創設。

◆現在、防音サッシはアルミ製と

樹脂製に限定されているため、同等の性能を有する木製サッシを防音サッシとして追加する。

◆難燃薬剤処理木材の製品J A Sの公示が追加されれば、建物だけでなく多くの場面で活用できるため、関連研究機関や業界との協力の上、J A Sの取り組みを検討する。

◆マイクロ波照射によって大径木材を内部から加熱させ脱水させる技術の推進。

◆木造のバンクの普及促進。

◆住宅、公共施設(学校、幼稚園、福祉施設など)への日本産材の活用促進と助成制度の創設。

◆若年技能士の育成に助成制度を設ける。

◆日本産材を50%以上使用の住宅には優遇税制を設ける。

◆家具、建具、インテリア業界は人手不足もあり、経営状態が厳しく、減損会計が適用されると更に経営環境が厳しくなるため、事業所の廃業や倒産の件数を減らすための支援策を実施する。

◆中小企業投資促進税制及び「ものづくり補助金」制度の延長並びに助成・支援規模の一層の充実。

# ワールド・ウッド・デイ2020東京

## 令和2年3月17日から22日まで東京を会場に開催

一般社団法人木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会（原口博光会長）は国際木文化学会（IWCS）及びワールド・ウッド・デイ基金会（WDF）と共催で「ワールド・ウッド・デイ2020東京」を来年3月17日から22日にかけて東京都内で開催する。

木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会は木材産業の業界団体や企業が参加し、国会議員連盟を通じて木材産業の要望を関係省庁に伝えている。また、環境配慮の観点から国内の木材資源の活用に関する啓蒙も進めている。今回、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年の国際森林デイ合わせ、最新の木材技術や木材製品に関する情報を総合的に発信



ワールド・ウッド・デイのポスター

する「ワールド・ウッド・デイ2020東京」を行うことになった。

国際連合は毎年3月21日を自然環境の重要性を啓発する「国際森林デイ」と定めている。「ワールド・ウッド・デイ」は「国際森林デイ」の前後の日程で2013年より世界各地で開催。第8回目の開催地を東京に定め、前半となる3月17日から19日までの3日間、東京都大田区のTRC東京流通センターを会場として木材や建材の製品展示、ワークショップ、木製品の作品展示、木育などを行う。後半の3月20日から22日までの3日間では、東京都文京区の文京シビックセンターを会場として記念式典に加え、シンポジウムや木の楽器を使った音楽祭などを企画している。

■ワールド・ウッド・デイ2020東京

会期・令和2年3月17日～19日・3月20日～22日

会場・東京流通センター（前半）・文京シビックセンター（後半）

企画内容・木製品展示、木材開発技術情報発信、ワークショップ、木育事業、コンサートなど